

## 大津波から10日目で 青空道場を始めた 陸前高田市・岩崎道場

東日本大震災による大津波で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市で、被災10日目から柔道の練習を始めた柔道家がいる。順道館岩崎道場の岩崎健二八段である。そのときの思いと、現在の心境を伺った。

### —青空道場を始められたきっかけは？

私の自宅、道場、経営していた整骨院が流されましたが、家族と従業員は全員無事でした。これはこの地域ではたいへん珍しいことでした。どの家庭も家族の誰かしらに失っているところがほとんどだからです。生き残ったということに感謝すると同時に「これからの人生、世の中のためになることをしたい」と考え、整骨業のボランティア活動と、知人の駐車場を借りての柔道の練習を始めました。柔道を思い立ったのは、幸いにも命を落とした子がいなかったこと、昨年からの目標としていた大会があったからです。といっても、上は柔道衣、下はトレパンに運動靴を履いての練習でした。

### —子どもたちの様子は？

野外での練習ということで、当然投げられることはできません。最初はもちろん戸惑っていましたが、日を追うごとに慣れてきて、与えたメニューを進んでこなすようになりました。誰一人として不平や不満をいうことなく練習に励んでくれました。この経験を通じて、一人ひとりがやればできるということを実感し、大きく成長してくれたような気がしております。

—現在の練習環境は？

市内にある中学校の格技場の解放時間をお借りして、週3日練習させてもらっています。自由に使える柔道場を建てたいという思いはありますが、現在、建物を建てられる地域の設定ができていないので、厳しい状況です。

### —全国の柔道関係者に伝えたいことは？

上村春樹全日本柔道連盟会長・講道館長から安否のお電話をいただきましたこと、たいへん嬉しく思いました。また、全国の皆様からの善意に深く感謝しております。本当にありがとうございました。ただ、柔道衣や畳などのお申し出には保管場所がなく、一部以外はお断りするしかなかったことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

現在も朝早くから瓦礫の片付け作業を行っております。しかし、あまりにも広範囲のため、困難を来しております。今後の市の復興には今なお多くの問題が山積みとなっており、残念ながらかつての姿を取り戻すにはかなりの時間が必要とされることでしょう。もしも許されるならば、全柔連をはじめ皆様には被害に遭った者が何を望んでいるのか、知っていただければと思っております。それが本当の意味での被災地の応援につながるものと私は信じております。



## 「がんばろう！ 陸前高田柔道教室」

全日本柔道連盟参与 小林次雄

### 仮設道場での柔道教室

順道館岩崎道場の岩崎健二館主は、東日本大震災復興支援活動に熱心に取り組んでいる。元プロ野球選手として大活躍し、柔道六段という異色の経歴を持つ森 徹さんの協力で、10月1日(土)陸前高田市立第一中学校格技場の仮設道場で、「がんばろう！ 陸前高田柔道教室」を開催した。式典には80名が参加。全柔連上村春樹会長からの激励のメッセージが披露され、森さんからの200人分の支援物資の贈呈式が行われた。

柔道教室は東京から3名の講師、森 徹先生(全国野球振興会理事長、北区柔道協会副会長)、関根正先生(岩崎先生の柔道仲間で、北区柔道会長、法政大柔道部元監督)、わたくし小林(岩崎先生の東洋大柔道部後輩)による講演会、地元指導者との実技指導が行われた。

### 被災地を目のあたりにして

42年前の道場開き式に恩師の醍醐敏郎先生ご夫妻と出席して以来、周年行事、柔道教室などで訪れるたびにお世話になったご自宅、道場、整骨院も跡形もなく大津波に飲み込まれた惨状を正視できなかった。町は大量の瓦礫が一次置き場に山積みされているだけ。鉄道をはじめ復旧は遅々として進んでいない。これでは復興は10年では難しいと感じた。訪れるたびにご当地のたく強い「絆」を嬉しく思っていた。一日も早い「絆」と風光明媚な「町」の復興を祈念している。

### スポーツ界の復興支援活動について

柔道教室が行われた同日、近隣で被害の少なかった気仙地区にある住田町運動公園において、全国野球振興会が森理事長ら往年の名選

手10名による「野球教室」を開催。住田町農協会館では、大相撲の尾車部屋が尾車親方(元大関琴風)はじめ部屋総出で、サイン会とちゃんこ料理の炊き出しで復興支援活動を行っていた。各会場で地元の方々が見せていた充実した表情が印象的であった。

我々、柔道人は被災された仲間への、今、そして今後の「共助」を長く続けよう！

防災、災害時は「自助・共助・公助」が基本理念であるが、当地は約8割の世帯が水没する大被災を受け、「自助」「共助」は現地ではままならない状況にある。さらに、政府・行政の「公助」の対応の遅れが悔しいほど虚しい。

我々は柔道人として、嘉納治五郎師範の教えにあった「精力善用」「自他共栄」の精神で、被災された仲間の復興のために「共助」(協助)しようではないか。地域軸と時間軸を十分考慮した、適切で長い支援が復興のパワーとなることを信じている。



前列左から森先生、関根先生、岩崎先生。後列右が筆者

それは特別なコマツである。見た目は普通の建設機械。実は、ハイブリッドカー。海外で初めて会う人は、みんな驚く。「建設機械なのに、ハイブリッドカー？」と。「世界初」なのだから、それも無理のないこと。2年前、最初の一台が日本で

働きはじめ、こうしてお隣の中国にもやってきた。日本発のこの技術が、少しずつ世界に広がっていきばいい。ハイブリッドという言葉が、世界の現場で、あたりの言葉になるといい。黙々と働く黄色い車体が、そう言っているようだった。

人のための道具だから。社会のための道具だから。

Global Teamwork

**KOMATSU**

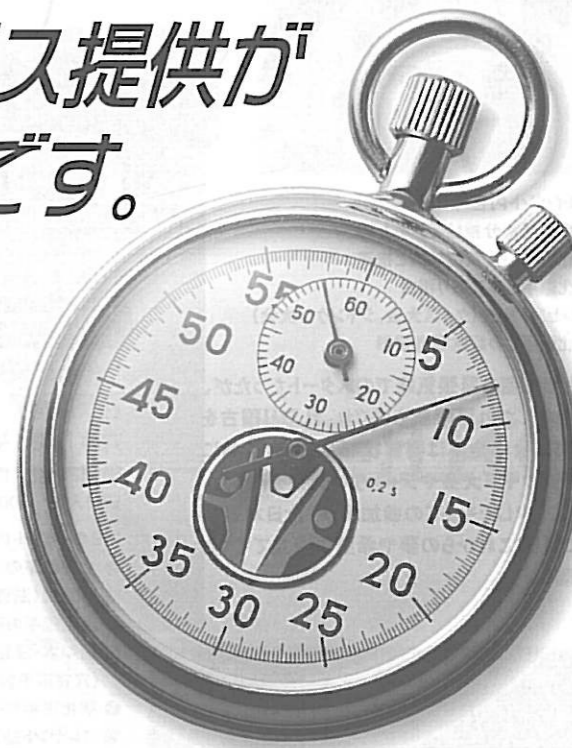
コマツ 〒107-8414 東京都港区赤坂2-3-6  
FAX 03-3505-9662  
http://www.komatsu.co.jp/



建設機械の世界でも、「ハイブリッド」が、あたりまえの言葉になりますように。

## スピーディなサービス提供が シミズオクトの財産です。

昭和7年(1932年)の創業以来、シミズは時代の変化の対応とともに、業界のスペシャリストとして、多種多様なイベントに携わってきました。その中には、何万人もの会場の警備や、絶対不可能と思われたステージの設計・設営、雨や風や雪の中でのイベントなど、様々な難問に直面しながらも、安心して楽しんでいただけるよう、一つ一つの問題点を確実にクリアしてきました。これらの数え切れないほどの経験は今、イベントをまるごとサポートする「シミズオクト」の貴重な財産として、よりスピーディなサービスの提供とともに活かされ続けています。



株式会社 **シミズオクト**

本社/03-3360-7051

http://www.shimizu-group.co.jp

●イベント運営管理 ●建物総合管理  
●警備業務 ●広告物設計施工  
●美術装置・仮設舞台・客席等設計製作